

令和5年度 第2回佐久市自殺対策連絡協議会 会議録

日時：令和6年2月9日（金）午後1時30分～3時

場所：佐久消防署 講堂

出席者：委員14名、オブザーバー1名、事務局10名

1 開会

2 あいさつ 榎本会長よりあいさつ

3 会議事項

《報告事項・協議事項》

(1) 地域における自殺の基礎資料について【資料1】

佐久市の自殺の状況について説明しました。

(2) 心といのちの総合相談会について【資料2】

経年の相談状況、今年度7月・12月に実施した総合相談会について説明しました。

(3) 令和5年度佐久市自殺対策連絡協議会の反省と来年度への要望について

なし

(4) 来年度事業計画について【資料3】

主な事業について抜粋して説明しました。

(5) その他

本協議会に子どもや女性を支援する団体が少ないため、来年度より加入を検討したい。

→加入団体については、委員からの意見をもとに事務局で検討。

《情報提供・話題提供》

「長野県における自殺対策の取り組みについて」長野県精神保健福祉センター 主査 荻澤 歩 氏より別紙資料に基づきお話いただきました。

《意見交換・情報交換》

<佐久市教育委員会 田宮委員>

- ・コスモス相談は子どもからの相談もあるが、保護者からの相談が多い。内容は不登校、友達や教職員との関係等。
- ・今年度より、子ども相談フォームタッチを導入。相談を聞いてほしい人として、小学生（高学年）は担任や教育委員会の希望が多かったが、中学生は家族・担任以外の身近ではない人に相談したいとの希望が多かった。相談希望が入った場合、3日以内に対応できるようにしている。子ども達も電話より、メールの方が言いやすい様子がある。タッチ導入後、6/1～12/1までに小学生37件、中学生17件

の相談があった。現時点では、夏休み等の長期休みは対応していないため、その間の対応をどうするかが課題である。

- ・SOS の出し方教育後のアンケートから生徒の様子を得られることも多く、今後も連携をお願いしたい。

<佐久地区労働者福祉協議会 宮澤委員>

- ・相談先が分からないことがある。佐久保健福祉事務所が作成した相談窓口一覧のようなものを労働組合の会議で配布したい。

<佐久保健福祉事務所 栗原委員>

- ・未遂者に対して、医療機関から支援機関へ繋ぐことが難しいという現状があり、さりげなく相談先があることを知ってもらいたいと思い作成。管内 14 の救急告示医療機関に配布するとともに佐久保健福祉事務所のホームページにも掲載しているので、ダウンロードして使用していただければ。

<佐久警察署 赤羽委員>

- ・未遂者について、消防で不搬送になった場合はほぼ警察に通報がある。警察に通報があった場合は、警察の判断で県保健所に繋いでいる。予防という観点では警察はあまり関わりがない状況。

<佐久薬剤師会 榎本会長>

- ・オーバードーズについては、薬局においても商品を取れないようにしたり、一人ひとつまでという制限をかけたり、年齢確認をしている。ただ、色々なお店を回ってしまえば購入は可能。薬剤師会では、学校で薬物の話をしている。ゲートキーパーとしての役割も必要だと思うが、薬局は薬をもらうところというイメージで相談されていく方は少ない。いつもと違う様子があれば話を聞いて対応している。

<佐久消防署 堀田委員>

- ・佐久消防署では旧佐久市を対応。自損行為での出動は、R5 は全体の 0.7%にあたる。R3 からは減少傾向にある。過去 3 年では全てオーバードーズがトップ。薬に依存している傾向。死亡が確認されれば警察へ連絡、搬送できる状況であれば医療機関へ搬送。精神疾患を抱えている方が多く、医療機関への対応も苦慮している。市から緑の相談窓口カードの配布を依頼されたが、搬送時に話題を持ちかけることは困難。消防署では警察同様、予防やその後のケアには至らずに、現場対応をさせてもらっている状況。

<長野県精神保健福祉センター 荻澤氏>

- ・子どもに SOS を出すように伝えるだけでなく、大人もキャッチできるように（こちらから声をかけられるように）感度をあげていく必要がある。SNS 等の時代の変化についていく。オーバードーズも気持ちの痛みを取るために飲んでいく。気持ちの痛みがなくなると繰り返してしまう。その痛みについて他の方法で和らげられるといい。子どもの頃から関わっていければ将来的な自殺未遂を防げるかもしれない。1つの機関で支えていくことは難しい。協議会の場や関係機関で情報交換をしたり、相談していくことが大切。

<ウィズハートさく 新津副会長>

- ・引きこもりの子ども達への支援している団体の話を聞く機会があった。インターネット・ゲームの中に支援者が入っていき、子ども達と会う。ここにつながった子ども達が回復していく姿を見させてもらった。若者はネットで色んな人と繋がって特に困っていない人もいる。引きこもっている＝困っているという発想も変えなければいけないかもしれない。でも本当に困っている人もいるため、見極めることが必要。大変な時は相談できる余地をネットの中に作っていく。今後の支援の参考になるかもしれない。

<長野県弁護士会 町田委員>

- ・佐久在住会の川島弁護士と一緒に高瀬小5年生を対象にいじめに関する授業を行った。「皆だったらどう対応する？」と投げかけてグループワークをした。「自分だったらどうしたらいいんだろう」と真剣に考えてもらう機会となった。いじめ対策も自殺対策に繋がるのではと感じた。

《事務連絡》

- ・第二次佐久市自殺対策総合計画の令和5年度評価、令和6年度計画について：来年度に入り、各団体へ照会予定。
- ・次回協議会について：来年度7月下旬頃開催予定。

4 閉 会